



長村
 卷井
 木し
 通の
 汗つ
 雨ぢ
 夜のす
 殿のま
 上之
 巻紅
 津田
 秀琳
 紅木
 堂編
 柳齋
 房種
 畫梓



村井

長菴

丸廻辻

接高

序程

画

津田

雨夜の

濃紅

秀琳

編輯

西の林

宗板



叙言

濃紅や宇とて一見えぬ人のや誰ゆらぐ
吟声ありく、雲み村井長庵のわが甘き
仁彬直内、浪の強急能く舟さへ切客、
其罪なき、不の縁路が、只幾ある、ついで果敢る、
一、此の報の、縁が、
悪く、
甲申、

編者 義直

八巻下

+

+

+



生涯奸計
 有金
 錢
 身坐
 嚴刑
 思已
 灰

村井長庵

金
 の
 け
 ち
 然
 也
 圓
 一
 重
 兵
 衛
 一
 隅
 回
 人

大岡越前守公

百姓重兵衛

長庵

長庵

つぎ けのしんげいのあはれや
 二の女を渡けはたしつゝのふせ
 三の女を渡けはたしつゝのふせ
 四の女を渡けはたしつゝのふせ
 五の女を渡けはたしつゝのふせ
 六の女を渡けはたしつゝのふせ
 七の女を渡けはたしつゝのふせ
 八の女を渡けはたしつゝのふせ
 九の女を渡けはたしつゝのふせ
 十の女を渡けはたしつゝのふせ



この女を渡けはたしつゝのふせ
 この女を渡けはたしつゝのふせ
 この女を渡けはたしつゝのふせ
 この女を渡けはたしつゝのふせ
 この女を渡けはたしつゝのふせ
 この女を渡けはたしつゝのふせ
 この女を渡けはたしつゝのふせ
 この女を渡けはたしつゝのふせ
 この女を渡けはたしつゝのふせ
 この女を渡けはたしつゝのふせ

この女を渡けはたしつゝのふせ
 この女を渡けはたしつゝのふせ
 この女を渡けはたしつゝのふせ
 この女を渡けはたしつゝのふせ
 この女を渡けはたしつゝのふせ
 この女を渡けはたしつゝのふせ
 この女を渡けはたしつゝのふせ
 この女を渡けはたしつゝのふせ
 この女を渡けはたしつゝのふせ
 この女を渡けはたしつゝのふせ



子達子の代金五兩

ては子のころのうけり

とて

あておぼく

どんせれども

とて

十三年の秋

困る

とて

おぼく

おぼく

とて

おぼく

おぼく

とて

おぼく

おぼく

とて

おぼく

おぼく

とて

おぼく

おぼく

とて

おぼく

おぼく

とて

おぼく

おぼく

とて



おぼく

おぼく

とて

おぼく

おぼく

とて

おぼく

おぼく

とて

おぼく

おぼく

とて

おぼく

おぼく

とて

おぼく

おぼく

とて

おぼく

おぼく

とて

おぼく

おぼく

とて

おぼく

おぼく

とて

おぼく

おぼく

とて

おぼく

おぼく



おぼく

おぼく

とて

おぼく

おぼく

とて

おぼく

おぼく

とて

おぼく

おぼく

とて

おぼく

おぼく

とて

おぼく

おぼく

とて



つぎ

不故情めども

得余のあつてはあつて

物又れの辻のついでに

中山様も

この後

一休一休

上巻

兼の腹早三回

あて百機作の男

あり鼻紙へ

三下目村井長

多依阿れ

は俗世の

あ付何

て見れ

るれが

病苦の

の証

横死

の

て

思

み

ふ

か

病



田松 とも かく 今 月 日 せ と の 大

